釜江廣志教授退任記念号の発刊に寄せて

釜江廣志教授は，2018 年 3 月に本学を退職されました。先生は 2009 年 4 月に経済学部および大学院経済学研究科の専任教員として着任され，その後 9 年間にわたり本学の教育・研究活動に尽力されました。ご在職中の先生のご貢献に対し，心から感謝申し上げます。

釜江先生は，1970 年に京都大学経済学部を卒業されたのち，一橋大学大学院経済学研究科修士課程および博士課程で学ばれました。1975 年に小樽商科大学商学部に専任講師として着任されたのち，同助教授，山口大学教養学部助教授，一橋大学助教授，同教授を歴任され，2009 年 4 月に本学に教授として着任され，「証券市場論」「金融工学」等の講義を担当されました。また，その間，北海道大学，成城大学，中央大学，同志社大学，長崎大学等多くの大学で，非常勤として教鞭を執られ，1993 年には博士号（商学，一橋大学）を授与されています。

釜江先生は，これまで一貫して，日本の国債市場の効率性に関する研究を続けていらっしゃいました。そこでは，債券市場において利用可能な（強度，準強度，弱度の）情報が，国債価格や利回りに効率的に反映されているかを，最先端の時系列分析の手法を駆使し分析され，これに基づき，国債管理政策に関する重要な提言を行われました。次頁以降の一覧表にみられる膨大な研究業績の成果は，例えば，『日本の国債流通市場―利子率の期間構造の計量分析―』（有斐閣，1993 年），『日本の証券・金融市場の効率性』（有斐閣，1999 年），『日本の国債市場と情報』（有斐閣，2005 年）に結実しております。また，本学に着任後は，史的な観点から，明治，大正から昭和戦間期における債券市場の効率性を研究され，『日本の債券市場の史的分析―戦前と戦後の数量経済史―』（同文舘出版，2012 年），『日本の公共債市場の数量経済史』（同文舘出版，2016 年）という二冊もの著書を上梓されました。

学外では，日本金融学会の理事，常任理事，生活経済学会の理事，副会長，会長を歴任され，このことからも，先生の研究は，当該分野の第一人者として，学界でも高い評価を受けていらっしゃったことが拝察できます。

また，釜江先生が，毎日，朝 7 時過ぎには大学に出校され，夕方まで研究室に籠り，研究活動に従事されているお姿を拝見しておりました。

このようにライフワークとしての国債市場の効率性の研究を一貫して，毎日，続けられるお姿は，まさに研究者の鏡であり，そのような先生と 9 年間，同僚として本学の教育・研究活動に携われたことは，私どもの誇りであります。

本学を定年された後も，本学や一橋大学の図書館にデータ収集に通われているとお聞きしております。おそらく，今後もこれまでも変わることなく，日本の国債市場の効率性の研究を継続されていくことと思います。末永くご健勝にてご活躍されることを切にお祈り申し上

げます。